

01

12月2019

ちいろばの先生

主を思う・・・
by NCM2 CHOIR

全3page

<ちいろばの先生>

今から40数年前、ロスのホーリネス教会には、日本からいろんな先生が訪ねてきました。その中に、あまり見栄えのしない、何かぼそぼそした牧師がいました。自分で、“私が「ちいろばの先生」です”と自己紹介されたのですが、誰も知りませんでした。

その頃は、今みたいに日本のニュースがすぐ来るとい時代ではなかったのです。どうも先生の書かれた本“ちいろば”が大変好評だったらしい。“ちいろば”というのは小さい口バの子という意味ですね。イエスさまを乗せした子口バのことです。先生は、イエスさまを乗せて、ふらふら歩く子口バだと言ったのでした。

初めてこられた時、先生は、“朝の3分の祈りがあなたの人生を変えます”と言って、朝3分お祈りすることを勧めたのです。そして、実際に隣の人と3分祈るということをしました。

たまたま前に座っていた私は先生と祈るはめになりましたが、何を祈ったのか、先生がどんなお祈りをされたのか全く覚えていません。ただ、3分というのがすごく長かったということだけ覚えています。

<“ちいろば”という本>

その頃、アメリカではあまり知られていなかった。この本は、今読んでみても、いつまでも楽しい面白い本です。終戦で満州から引き揚げてきた時からの自分の生涯を書いています。終戦で生きがい失って、神学校に入ったのですが、失望して、死のうと思ったのです。

そしたら、お寺の和尚さんに会って坊主になったりします。先生の父親は、彼が自殺しているのではないかと心配して探しまわり、ようやく父親に発見され、家に連れ戻され、再び神学校に行くというところから、教会生活、教会（聖光教会）の設立、そして、教会を去るというところまで書かれています。

この本は面白いだけでなく、ところどころ泣かされる真摯な記録です。



<ちいろば余滴>

“ちいろば”があまりに好評で、その続きとして“ちいろば余滴”という本ができました。自分が必死に汗水ながして設立した教会、「聖光教会」を人に譲って、四国の今治教会に行くのですが、これは大変な決断です。

いや、神さまにそう示されたのですが、こういうことは、なかなかできないものです。教会をたちあげた人は、“自分の”教会をいつまでも育てたいと思うのが普通ですが、そういう個人的に大切にしていたものを神さまにお捧げする。これは、なかなか出来ないことです。

そして、(自ら)新しく今治教会に移り、そこで週報に書かれたものをもとに、この“ちいろば余滴”が書かれています。これも素晴らしい、真実に満ち溢れた本です。



折尾クリスチャンチャーチ

住所 〒807-0873

福岡県北九州市八幡西区藤原 2-12-6

メール oriochurch@outlook.jp

電話&FAX 093-692-9200 (9:00~13:00) URL <http://www.oriochristianchurch.net>